

私が歩いてきた道-I

岩山登りと大型野鳥へ独り旅

*Way-I which I Walked It is Traveled alone to
Rock-Climbing and a Large-Sized Wild Bird*

岩崎行伸

時の経つのは川の流れるように、定年退官後12年余の歳月が無難に過ぎて行く。この間、毎日・毎週が日曜日であるために、今日は、明日は、何をしよう？ 何処へ行こう？ 何を食べよう？ と考え込む。家に引きこもっていると益々ストレスが貯まる。それでは、カメラと携帯電話をルックサックに詰め込むで、其々の四季における野外観察と生き物たちとの出会いに出かけようと計画する。当日の天候が気になって、天気予想をパソコンで検索する。早寝早起きし、早朝から晴天であれば実行し、降雨の日であると野外観察を中止し、家で自然景観や生き物たちの生態写真・記録・整理・編集等の仕事を愉しむことになる。

家に引きこもっている時、何時も思い浮かべる記憶は若き頃の事である。岩山登りを始めてから、山岳写真家を目指していたことを記憶する。当時は、モノクロ写真の全盛時代であり、夏山のメッカとなっていた、北アルプスの縦走コース、大町から白馬岳(2932m)、大雪溪泊～燕岳・大天井岳ヒュッテ泊(922m)～槍ヶ岳(3180m)～奥穂高岳(3190m)、モノクロ写真の全盛時代であり、夏山のメッカとなっていた、北アルプスの縦走コース、信濃大町から白馬岳(2932m)、大雪溪泊～燕岳・大天井岳ヒュッテ泊(922m)～槍ヶ岳(3180m)～奥穂高岳(3190m)～上高地-泊一河童橋-大正池(1978)を散策する。



図1. 岩登りの独り旅-1 (A: 奥穂高岳/北アルプス、B: 槍ヶ岳、
C: 白馬大雪溪)

この頃からフィルム/カラ-化し、春山の残雪期では八ッ岳連峰の縦走（小淵沢-硫黄岳・赤岳, 2899m、1979）から尻セードをして茅野に下る。

富士吉田の三ッ峠山（山梨）の岩山では初めてのザイルによるロッククライミングを体験し（1980）、岩山の頂点に立った時の感動のこと。冬山では、年末・年始・正月休暇を利用して奥秩父の千曲川・北奥千丈岳（2601m）、山歩きに際し山頂付近で瞬時吹雪に遭い（1981）、遭難寸前にコーヒー一杯の休息から晴れ間を見て山小屋へ辿り着いたことは、今日でも深く記憶されて、岩山登りと冬山は恐ろしくもあり厳しい体験であった。



図2. 岩登りの独り旅-2 (D・八ッ岳、E・八ッ岳、F・宿舎跡、ト高橋)

残雪期や夏山での岩山登りには体力や気力そして技術面の他に、山岳気象の知識が必修である。以後はせめて平原のハイキング程度の大菩薩峠（1897m）・里山景観と散策の旅へと移って行く。この頃になると、カラ-写真が流行してくる後、体調管理や呆け防止策として趣味・道楽と新しい趣味の道へのアタックを愉しむと長生きするという。小生には現役時において、専門仕事以外にこれといった趣味・道楽等を持つ余裕がなく、プライベートは何時も足ふみする。現役時として、海と魚の調査・研究等の未知への挑戦と意欲に注いだことが、今日の延長線上と財産へと引き継がれていることを確認できる。



図3. 岩登りの独り旅-3 (G: 谷川岳/マガチ沢、H: 谷川岳/一ノ倉沢/群馬)

日本近海の海況と海産魚とくに外洋性大型魚や駿河湾産魚類の漁業生態学的調査・研究のため、海と釣り行きの機会が少なくなることから、未知への道として、河川・湖沼に棲息する水棲生物と環境調査・研究や里山の景観と生き物たちの行動生態等に魅力を感じ深入りして行く。

さて、定年後(2000)の独り旅の記憶は、未知への挑戦として、未だ見ぬ大型野鳥のウオッチング・オリジナル生態写真撮影のため、北海道/釧路湿原とタンチョウ(2002、特別天然記念物)、新潟/佐渡ヶ島のトキ(2003、特別天然記念物)、兵庫/豊岡のコウノトリ(2004)特別天然記念物)等々の観察である。



図4. 大型野鳥・絶滅危惧種 (I : タンチョウ/釧路、J : トキ/佐渡ヶ島、K : 豊岡/兵庫)

これらは何れも絶滅危惧種に指定されており、人工繁殖・保全保護等の研究が推進されており、何時の日か日本の上空に舞い降り立つ姿を連想していること、その大型野鳥たちの保全・保護・繁殖・再生等を覚えたことである。

参考資料

- 1) 富士山と生き物たち四季の魅惑(2003): 黒船印刷、岩崎行伸著
- 2) 続・富士山と生き物たち四季の魅惑(2004): 黒船印刷、岩崎行伸著
- 3) 野生・絶滅危惧種の今(2006): 海鳴メールマガジン第6号、岩崎行伸著

添付資料

- 図1. 岩山登りの独り旅-1 (A: 奥穂高岳、B: 槍ヶ岳、C: 白馬大雪渓)
図2. 岩山登りの独り旅-2 (D: 八ッ岳、E: 八ッ岳、F: 河童橋/上高地)
図3. 岩山登りの独り旅-3 (G: 谷川岳/マガチ沢、H: 谷川岳/一ノ倉沢/群馬)
図4. 大型野鳥・絶滅危惧種 (I: タンチョウ/釧路、J: トキ/佐渡島)、I :
コウノトリ/豊岡)

記憶・私が歩いてきた道-I、会員: 自然観察研究会、昆虫写真研究会